

## 2、学校評議員による第三者評価

1、期 日 2019年3月15日午前10時～11時半

2、参加者、評議員4名（校長経験者I氏、地域区長K氏、地域社福経営者E氏、卒園生代表M氏）園側3名（園長、舟山、結城）

3、話し合い（評議員さん方の自由な発言から）

園長、学校評議員による第三者評価の話し合いは二年目になります。忌憚のないご意見とご指導をお願いします。まず始めに、紙面による評価のM氏とE氏の提案から入りたいと思います。

### 《みくにの空気が心を育てる》

M氏、評価図表の下にある<言えることの3>が今後のみくに幼稚園の礎となり明るい将来が期待されると頼もしく拝見したところです。やはり直接かかわる先生方の姿勢がみくにのイメージとして反映されることは大だと思いますので、職員の心身の環境整備が大切だと思います。また、クリスマス会での先生方のオリジナル劇の各人の個性・感性に驚きました。毎日を共に生活している子ども達が幸せだなと感じたところでした。個々の連携・協調により、みくに全体の空気づくりになると思います。みくにの空気が子ども達の心を育てていければ更に素晴らしいと思います。

E氏は職員の皆さんの意欲について、職員による評価の中に「コミュニケーション、チームワークでの対応、共通理解のための話し合い」などの言葉があってこれらは良い保育に欠かせないキーワードとして共感しました。教育目標や教育課程についても、意識を高く持ち質の向上を目指していることが伺えます。経営側も職員の働く環境を少しずつ整えながら「開かれた学校づくり」に向き合って頂きたいと思います。

M氏、先生方の意見にもありましたように「共通理解、ゆっくり丁寧に、余裕を持って」など大事にして欲しいと思います。

### 《みくに学園がこの町の誇り》

K氏、「保育士不足や転職等、良いニュースを聞かないが、みくに学園の労働環境はどうなのか？園長、みくに幼稚園のお給料は初任給から始まって悪くないです。県幼稚園・認定こども園白書などを見ても平均より上です。先日の理事会でも話題になりました。

F先生、認定こども園になってお給料も上がりましたが、教材費や教具費が潤沢になり、それまで買えなかった物が買えて、教育に意欲がわき、指導に奥行きが出ました。

K氏、男子の保育士が家族を扶養できるような給料が出せるといい。子どもに対して男性の保育士ができる事はある。例えば、喧嘩をした時に喧嘩をやめさせるだけでなく納得させながら喧嘩を続けさせたり、取っ組み合いをさせたりして「怒られることに慣れる子ども」を育てることも大事。園長、確かに幼稚園や保育園に働く方は女性が多い。みくに学園には一人の男性職員がいるけれども、叱り方だけではなく活躍の場は沢山あります。幼い子供に対してはどうしても子どものケアが殆どですが、男性の先生ができる事は沢山あります。

K氏、障害を持った子の受け入れや指導に感動しました。先日のクリスマス会の時の親御さんの話を

聞いてみくに幼稚園の実践に聞き入りました。こういう学園が天童にあるのは五日町の誇りだね。園長、健全者も障がい者も神様がくださった尊いたった一つの命です。他の幼稚園がやっているよう障害を持っているからと言って門前払いはしません。覚悟を持って取り組んでいます。

E氏、障がい児や病児に対する指導については「安心して我が子を預け働けることができる」という信頼感を持たれているようで何よりだと思います。

### 《安全第一に対する取り組み》

I氏、安全についてはどう取り組んで実践していますか？

園長、危機管理や安全が第一なので実践を続けています。昨日も抜き打ちの避難訓練をしました。

I氏、ぜひ子どもの引き渡し訓練をして欲しいと思います。東日本大震災の時は「電話なし、信号機停止、情報なし」だったので、それを想定して訓練を計画して欲しい。

Y先生、安全第一で「保健安全、環境安全、生活安全、食の安全」などのチームを作ってそれぞれ年間計画を立て実践、評価、次年度の計画を立てています。引き渡し訓練の実際はどうするのですか？

I氏、天童は災害の少ない土地柄だけど、大雨による倉津川の反乱や舞鶴山の崩落など想定外のことが世界的に見れば多々起きている。知恵を出し合って避難の方法を考えてみるといいと思います。

### 《今後の課題として》

E氏、保護者の皆さんからの声は満足しているものが殆どでしたが、そうでないものもあるのでこれを今以上に丁寧に取り扱い、何が問題なのかを見極め、ニーズに応えつつも保護者に対しても教育をしていくことの必要性を感じます。職員や園に対する評価が厳しいことについても、黙って口を閉ざす人よりクレームを直接言ってくれるひとの方が重要であるということでしょうか。

K氏、時代が変わっている。利潤を追求する園が多い中で、どう生き残っていくかが課題ね。子どもの心や体を育てるのに自分たちが儲けてどうするのだろう。今は質の向上が叫ばれているのに。

園長、質の向上をねらうことは計画的に時間をかけていかなければならないと思います。保育園と幼稚園を一気に義務教育化することは制度的に無理という判断（保育園には教育課程や指導要領などの考えがなじまず、幼稚園は0歳～1歳の保育を経験していないし、児童館や企業主導型保育園など、経営母体が違う）の下、国は3歳以上の園児の無償化に踏み切ったわけですから、まずは先生方に1級資格を持つようにしなければならないと考えています。

I氏、集まってきた子供の実態や目の前の子どもから学び先生方の思いを受け止め形にすることが大事。

M氏、教育は人ですから、まず指導者が健康で元気、快活で一生懸命なこと、これが人の心を動かします。自信を持って取り組んで頂きたいと思います。

E氏、ただ一つ、お昼寝の様子など、保護者が納得するためにも見学させる機会を持つことはできないでしょうか。「食育」がテーマの運動会も興味がわきました。また、命の大切さを感じさせることのできるセラピードッグの導入なども検討されてはいかがでしょうか。

園長、以上、ご多用中の所、時間を割いていただきありがとうございました。これらを参考に今後の実践につなげていきたいと思っています。